活彩!保健大学だより

AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

第20号/平成21年7月31日発行　青森県立保健大学広報誌

CONTENTS

新入生歓迎のことば 学長挨拶…… 2
創立10周年記念事業について …… 3
新入生歓迎挨拶…… 4
新入生のことば …… 6
上級生のことば …… 8
新入生研修……10
海外授業……12
国際交流……13
特別講義……14
自治会・サークル活動紹介 ……15
就職関係報告 ……16
卒業記念パーティー ……18
卒業生からのメッセージ ……19
教職課程（栄養教諭）の運営状況
／　ウェルカムパーティー ……20
青森県立保健大学学術研究集会……21
進学相談会・オープンキャンパス ……22
人事異動……23

新入生歓迎のことば

青森県立保健大学
学長
リボウィッツよし子

命の萌えいずる素晴らしい季節の到来とともに、本日、健康科学部新入生及び編入生２３４名並びに大学院健康科学研究科博士前期課程生１７名及び博士後期課程生５名、合計２５６名の若々しいエネルギーにあふれる新入生の皆さんを本学に迎えることになりました。この佳き日に青森県副知事をはじめ、来賓各位のご臨席を賜り、入学式を挙行できますことは、本学にとってこの上もない喜びであります。

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

さて、皆さんは看護師・保健師・助産師・理学療法士・社会福祉士、精神保健福祉士・管理栄養士をはじめ、保健、医療、福祉に関する幅広い知識と各専門分野における高い専門的能力を備えた専門職を目指して本学へ入学し、喜びと期待で夢は大きく拡がっていることと思います。本学の教育は、専門職として豊かな人間性と専門性を修得する大学学部教育、並びに博士前期課程では高度実践力を備えた専門職業人を、博士後期課程では教育者や研究者の育成を目指しております。本学に一貫する教育の理念は、人々の「健康と生活の質の向上」を目指し、ヒューマンケアを提供できる保健医療福祉の専門職の人材育成と、さらに地域・社会に貢献できる人材育成であります。地域・社会とは、国内のみにとどまらず、世界を視野においています。ヒューマンケアとは、ケアの提供者である専門職としての知識や技術のみでなく、人間とはなにか理解し、病気や障害をもつ人々の心の痛みを感じる思いやりと暖かさを持って接することができる人です。皆さんには、保健医療福祉の専門職を目指しこの学び舎で、のびのびと、身体と心，そして人間を鍛えていただきたいと思います。　それには、５つの問いを毎日自問してみてください。

1．私はたっぷり夢を見ているだろうか？　多くの可能性を秘めた皆さんです。十分友と夢を語り合い、実現に向かって歩んでください。

2．私は十分生きているだろうか？何事にも興味を示し情熱をもってチャレンジしてみてください。毎日がただ存在する「ＢＥＩＮＧ」から皆さんを創り上げていく「ＢＥＣＯＭＩＮＧ」の生きた経験を積んでください。

3．私は忘れ去ることを学んでいるだろうか？　失敗は成功の元です。いつまでもこだわらずにシフトを変え前向きに立ち向かうことを学習してください。

4．私は日々感謝することを学んでいるであろうか？　私たちは皆支えあって生きています。感謝の気持ちを態度で示しましょう。

5．私は地球を歩き、見つけたときよりいい状態にしてそこをあとにしているだろうか？　自分のことだけでなく、地球全体を見渡し少しでも良い状態に向けて努力することです。

皆さんが自問自答し、たどりついた答えに助けられて、この学び舎で、確実性、情熱、喜びを分かち合い成長されることを願っています。本学での「人材育成」とは、皆さんにとっては、まさに自分を鍛え育むことです。本学での「出会い」と「繋がり」を大切にし、学部生の４年、大学院生の２年、３年後には、たくましく元気に社会へと旅立って行かれることを期待しています。

最後に専門職を目指す皆さんには、責任が伴います。４年次は、国家試験があります。日々の学習習慣をつけ、１年次から準備していくことが肝要です。

本学は、地域の方々に支えられ、10 周年を迎えました。共に新たな飛躍へのスタートと、未来を担う皆さんの限りない前途を祝してお祝いの言葉といたします。

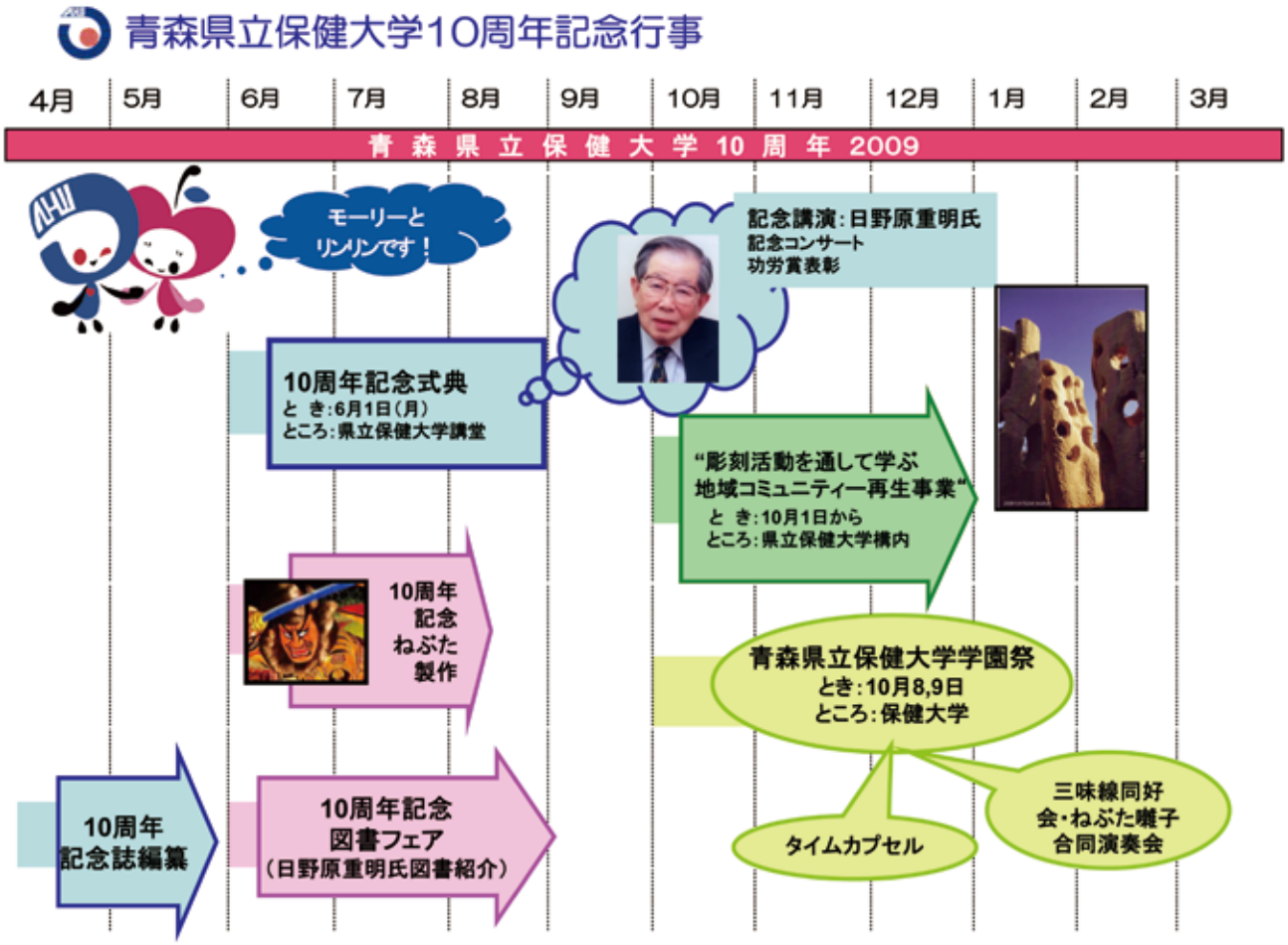
創立10周年記念事業について

青森県立保健大学
副学長
上泉　和子

青森県立保健大学は、１９９９年（平成１１年）に県立大学として開学し、２００８年（平成２０年）より、法人化し公立大学法人青森県立保健大学として、２００９年に１０周年を迎えます。この間、大学院博士前記課程、博士後期課程の開設、栄養学科の新設、理学療法学科、社会福祉学科の定員増、研修会開催など、保健医療福祉の人材育成、研究を担い、地域の方々に愛される大学となるべく、努力してまいりました。本学を巣立った学生は１，１７３人になり、大学院修了生も９９人を数えることとなりました。

本学がここまで成長することができましたのも、高い建学の理念をかかげ開学のためにご努力くださった方々、卒業生、実習施設など社会で本学を支えてくださった方々など、多くの皆様のご理解とご支援があったからと、心から感謝いたしております。わずか１０年ではございますが、この１０年にはたくさんの人々の営みと思いが凝縮しています。

そこで、本学では開学１０周年を記念して、各種記念事業を実施し、建学の理念を今後に伝えたいと考えております。



人間総合科学科目は「生涯の宝物」

人間総合科学科目
川内　規会

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

入学式の直後の「人間総合科学科目」の紹介では、専門教育に入る前の基盤づくりと説明しました。そこでは、１．　論理的思考能力　２．　豊かな表現能力　３．　総合的な判断力　４．　主体的学習能力　を養うことを目指しており、私たちの“人間性”を豊かにし、“生涯の宝物”となる知識・教養を身につけることのできる大切な教育であるとお伝えしました。また、４月から人間総合科学演習（ゼミ）も始まっていますが、この演習は大学での学び方を学ぶところとお伝えしました。各々が問題意識をもち、調べ、考え、伝え合い、主体的に取り組んでいく姿勢を学ぶものです。学科を越えて、お互いに学びあう貴重な時間であるといえます。

そして、大学生になった皆さんにぜひとも大切にして欲しいことは、人と人との関わりです。学生時代は、学内のみならず学外でも、多くの人と接する機会があります。そこには、相手を理解しようとする気持ちと、自分を理解してもらおうとする気持ちが必ず存在し、これが自分磨きにつながり、お互いの刺激にもなります。専門（学科）や年代（学年）に固執せず、多くの人と接して下さい。そして皆さんが“人間性”あふれる“生涯の宝物”を手に入れることを願っています。

出会いから学ぶ看護

看護学科
角濱　春美

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。

看護を学び始めると、人との多くの出会いがあります。小さな赤ちゃん、ご高齢の方、赤ちゃんを産もうとされているお母さん、健康な人、病気になってしまった人、そして死にゆく人…。皆さんが看護の実践を通して出会う方々は、悩みや不安、苦痛を抱き、支えを必要としている方々がほとんどです。看護は、このように様々な状態にある方々の、命を守り、必要な手をさしのべ、快適で心地よい状態になっていただき、ご自身が希望を見出すことができるように手助けする仕事だと思っています。

私たち看護学科は、教員同士で議論の機会を定期的に持ち、このような様々な状況にある人々に、その個人にあった、あたたかなケアが提供できる学生を育てるために、どのような教育をしたらよいかを考え続けています。今年の話し合いを通して私が感じたことは、お互いの成長を尊重し、助け合える教育をすれば、おのずとケアを受ける方々に満足していただける人材となっていくのではないか、ということでした。ですから、私自身、皆さん方に出会い、皆さんの成長を願って支えていきたいと思っていますし、皆さんにも私ども教員や大学の成長を願って、支えて欲しいと思っています。

よく学べ！よく学べ！

理学療法学科
川口　徹

新入生諸君、ようこそ学びの舎へ。これから始まる大学生活は、いろいろな面で将来の自分を形作る重要な礎になります。良き友を得て、良き師を得て、いろいろなことに興味を持って、大学生活を有意義にして欲しいと思います。

まず、良き友を得てください。高校までの友とはちょっと違う、同じ目線で専門的に学んだ友は、人生においてかけがえのない友となるでしょう。そして、大学生活のいろいろなことを友と一緒に歩んでいきましょう。時として、自分の意見

を友と戦わせることもいいでしょう。また一つ道が開けるはずです。

次に、良き師を得てください。高校までの受動的教育とは異なり大学教育では能動的教育が求められます。大学教員はそのためのサポーターであり、ファシリテーターであり、学生の学習を支えます。大学教員はそれぞれ専門分野を持っていますので、今後の学習や専門の方向性について道を開いてくれます。

そして、よく学ぶためには、よく遊ぶことも大切です。遊びの文化は、これから生きていくためのシミュレーションから始まっています。よく学ぶためによく遊び、大学生活を有意義で悔いのないものにしてください。

人を支援する「人」としての成長を！

社会福祉学科
杉山　克己

大学は入学すること・卒業することにではなく、そこで「何を学んだか」が重要なのだ…と、かつて私自身言われました。さて、皆さんはこれから何を学んでいくのでしょう？

社会福祉学科では社会福祉士や精神保健福祉士（以下、ソーシャルワーカー）の養成をしています。ソーシャルワーカーは保健医療福祉分野の他の専門職と比して「見える」技術をほとんど持ちません。おかげ（？）でLIVEの写真では毎年苦労します(^_^;)

でも、だからソーシャルワーカーは自然と「技術」というものそのものを色々と考えることになります。ソーシャルワーカーは特別の道具を使うわけでもなく、身体的なケアに直接かかわるわけでもない対人支援専門職です。

ところで皆さんは、単に専門職なるだけではなく、この大学ですごす時期に、同時に「大人」や「社会人」へと成長することも期待されています。ですから専門職になるための学習のみならず、「人を支援する「人」」としての「学び」も皆さんの課題であり、その為の「教育」が大学の責務です。

この私たちと皆さんの「共同作業」が、成功裏に終わるよう互いに努力していきましょう！！

そして、この大学に入って良かったと卒業時に言ってもらえることを切に願います。

新しいご馳走を見つけよう

栄養学科
岩井　邦久

「新しいご馳走の発見は、人類の幸福にとって天体の発見以上のものである」これは、美味礼讃の作者ブリア・サヴァランの有名な格言の一つです。18世紀生まれのサヴァランは、グルメとして有名でしたが、「味覚の生理学」、「国民の盛衰はその食べ方の如何による」や「禽獣は喰らい、人間は食べる。教養ある人にして初めて食べ方を知る」など、今の栄養学や食育にも繋がる示唆に富んだ言葉を残しています。

翻って現在、新入生の皆さんは毎日の食事をきちんと摂っていると思いますが、では、一生の間にどの位の量の食料を食べることになるのでしょうか？一説では、70トンにもなるといわれています。1日の中では好き嫌いや偏りが僅かだとしても、積もり積もって70トンにもなるのであれば、いい加減な食べ方が身体にとって良い筈がありません。これは、サヴァランの格言にも通じることです。

即ち、「新しいご馳走」とは必ずしも「美味しい料理」だけを指すのではありません。人々や皆さんの健康に役立つものであれば、その発見は新星の発見よりも尊いはずです。これから皆さんは、栄養学科でそれぞれの目標に向かって勉強しますが、自分にとっての「新しいご馳走」も是非見つけて下さい。

夢に近づいて

看護学科１年
池田　結花

今年度から、新天地青森での大学生活がスタートしました。私にとって何もかも初めてのことづくしだった日々は全てのことが新鮮で些細なことに刺激を受け、その分吸収することもたくさんありました。今ではこの大学に入学できて良かったと心から思います。

オープンキャンパスに参加し、自分の夢を叶えられる場所はこの大学だと思い志願を決意してから早いもので1年という月日が流れようとしています。そして今、こうして自分の目指していた大学に通えていることに対し本当に幸せを感じていると同時に、今まで支えてくれたたくさんの人に感謝の気持ちでいっぱいです。

大学での授業は回を重ねる毎に難しくなっていると実感しているため、コツコツと意欲的に勉強を進めていこうと思っています。そして、大変な面も楽しさに変えて乗り越えたいです。今のこと全てが将来のなりたい自分になるための助走だと思えば一層やる気も上がります。大きな希望を抱き入学したので、四年間のうちで悔いの残らないように目一杯勉強し思いきり楽しみ、メリハリを付けて大学生活を完遂したいです。きっと今頑張れば頑張っただけ、夢が叶った時の喜びも一入だと思います。私の大学生活は始まったばかりでこれから多くのことが私を待ち受けているでしょうが、一日一日を丁寧に過ごし「今」という時を大切に、まわりに優しく自分に厳しくの精神で頑張っていきたいと思います。

入学して思うこと

理学療法学科１年
大石　瞳

大学に入学して約２ヶ月が経ちました。何もかもが新鮮で驚きの連続でしたが、最近になりようやく大学生活にも慣れてきました。

私は八戸市出身で、親元を離れ一人暮らしをしています。今まで親に頼りっぱなしの生活をしていたので、一人で生活していくことの大変さと親がいることのありがたみを今痛感しています。しかし、泣き言ばかり言ってはいられないので、一人でも頑張って生活している姿を両親に見せることができるようになりたいです。

学校生活は、充実していて毎日がとても楽しいです。勉強量が多く大変だと感じるときもありますが、新しいことを知ることは喜びでもあります。これから更に内容も難しくなってくると思いますが、ついていけるように一生懸命頑張りたいです。また、友達と過ごす時間も楽しみの一つです。勉強を教えあったり、相談したり、遊んだりと色々な時間を共有できる友達ができ、とても恵まれたと思います。

入学して約２ヶ月、まだまだ分からないことばかりで戸惑うこともあると思います。家族、先生、友達など周りの人に支えられていることを忘れず、そして、理学療法士になるという目標に向かってこれからの大学生活を過ごしていきたいです。

憧れの大学生になって

社会福祉学科１年
高橋　由衣

ちょうど去年の今頃に保健大への進学を夢見てから、あっという間に大学一年生です。ホームシックになった友達が何人もいたのに、私は新生活にワクワクするばかりで寂しさは感じませんでした。入学式の日から新しい友達ができたおかげだと思います。人の名前と顔を一致させて覚えるのが苦手、レポートを書くのが遅い、方向音痴、英語とパソコンが苦手、そんな不安だらけの私ですが、無事に入学できたことで今は胸がいっぱいで、友達と過ごす毎日がとても楽しいです。

大学では将来に直接関わる勉強ばかりで、自主性や自己責任が必要不可欠です。大学生活は予想以上に授業やレポートの提出が多く、図書館や情報処理教室が閉まるまで利用する日がほとんどです。高校までとの違いに、大学生になったのだと実感します。将来は社会福祉士と精神保健福祉士の資格を取ってソーシャルワーカーになりたいと考えていますが、自分が向いているか不安に思うときがあります。それでも自分なりに動機を持って選んだ道なので、勉強が難しくても授業やレポートで多忙でも、後悔はしません。
大学だけでなくアルバイト、ボランティアなど活動の場を広げ、様々な経験から吸収したことを将来に生かしたいと思います。

栄養学科１年
岩尾　真美子

この春、私は故郷である福島県から、この東北最北端の青森県に出陣してきました。栄養学科の1年生は３１人おり、みんなキャラが濃くいつも笑いが絶えません。唯一の男子も今ではかわいいあだ名で呼ばれ、栄養学科の人気者です。

私は今、人生最大の敵に遭遇していると感じます。それは、パソコンです。機械おんちの私にとって情報

リテラシーの授業はとてつもなく過酷なものです。しかし、パソコンは使えません、なんて言ってはいられないこの時代。いつか必ず使いこなしてやる！と奮闘の日々です。

そして、大学生になり一番自分にプラスになっていると感じることは、年上の人と対等に意見を交わせる場があることです。大学は同い年の人はもちろん、様々な年齢の人が全国各地から集まっており、一旦社会に出た人など、自分よりも人生経験を多く積んできた人たちがいます。フィールドワークやグループワークの話し合いの中で、そのような人たちとの考え方の違いにとても感心し、自分にとって大きな刺激になりました。

この大学生活４年間を充実させるのも、なんとなく過ごすのも自分次第だと思います。同じ夢を持つ仲間たちと切磋琢磨し、将来立派な管理栄養士になれるように努力していきたいです。

新生活

編入学生：
栄養学科２年
青山　美奈子

保健大学に入学して、あっという間に２カ月が経ちました。最初のころは新しい環境に不安を感じていましたが、同じ編入生の２人ともすぐに仲良くなり、新しい先生方もクラスメイト達も温かく迎えてくれました。そんな栄養学科のみんなはとても向上心が強く、学ぶということにとても貪欲だというのが第一印象でした。私は今年の３月に東京の短期大学を卒業し、栄養士の免許を取得しました。より専門的な栄養学を学ぶため編入を決めましたが、より専門的になった分、日々自分の勉強不足に気づかされる毎日です。

私たち編入生は看護学科の編入生も含め、自分の学年だけでなく他学年の授業も受けなければならず、とても忙しいです。しかし、保健大学では他学年・他学科の学生と一緒に授業を受けることも多く、たくさんの出会いがあります。栄養学科だけではなく他学科の学生と交流を深めることで、栄養学だけではなく、人間としてもっともっと自分を成長させていきたいと思っています。

新しいスタート

大学院：
博士前期課程１年
對馬　幸子

私は３月に保健大の社会福祉学科を卒業し、４月からは修士課程で学んでいます。学部で福祉についての基礎的な知識を勉強し、また実際の現場での実習経験から、私は自分の興味のあることについてもっと知りたいと思うようになりました。以前から福祉教育、特に「いのちの授業」に関心があり、それが小学校だけの取り組みではなく、地域全体で関われないかと考えるようになったことが入学のきっかけです。ただ、私が大学院進学を真剣に考えたのは、実習が終わった４年生の秋と遅く、入試まで時間がありませんでしたが、無事に入学できたのはゼミの先生を始め、諸先生方に相談に乗っていただいたお陰だと思っています。

大学院での講義は大学時代よりさらに、「聞く」だけの受け身ではなく、自ら進んで参加する授業です。当然、課題をこなし報告する機会が多くなります。私がその時に実感するのが、職業を持ちながら学んでいる人との知識や経験の差と、人前で発表することの難しさです。もちろんこのままでいるつもりはなく、修士課程の２年間は先生方や周囲の方からより多くのことを吸収し、研究テーマを進めていきたいと思います。

人生最後の新入生

大学院：
博士後期課程１年
安川　澄子

私は、管理栄養士として医療施設で長年勤務しておりました。

そのうち栄養士養成校等で栄養学や臨床栄養学を教えるようになり、週に２回から３回、４回と授業を受け持つ事が多くなり、それがきっかけで最新の栄養学情報等を学びたいと思い修士課程に入学しました。その後、縁あって管理栄養士養成校に勤務し、公衆栄養学の授業を受け持つ事になりました。授業内容は、わが国や諸外国の栄養問題と健康、栄養政策、食事摂取基準、マネジメント、栄養疫学などで、問題もなく授業を行っておりましたが、栄養疫学に関しては悩んでしまいました。ある時、『疫学の専門家は、あらゆる疾病を対象とするため、栄養学の専門知識を有しているわけではない。さらに栄養学の専門家は必ずしも疫学の専門的な知識を持っているわけではない・・・両分野同士の共同研究が必須であり、お互いの分野を理解することが要求される。』と書かれた書物を見つけました。そこで私も初歩から学びたいと思いましたが、環境や年齢を考えて躊躇していましたが、壁上の『一生勉強・一生青春』（相田みつお）の言葉を見ました。鏡の中の私は、「歳」相応ですが、気持ちはいつも３０代（とても図々しい?）、おまけして４０代後半でしょうか。この若さ？で、苦労を覚悟で学んでいこうと決心し、授業に参加している現在です。これからの数年、よろしくお願い致します。

素直に感じられるこころ

看護学科３年
福井　美羅々

私が上級生だからといって、教えられることがあるわけではありません。
それは、私も常に学ぶ身でいるからです。この年になってようやく、大人の方の話はもちろん、年下の人からもたくさん学べることを素直に吸収したいと思えるようになってきました。今までは「自分は自分」とか、「自分の方が年上だから負けてはならない」と強く気張る傾向にありました。今考えると随分損してきたと思います。

特に変えようと意識したわけではありませんが、ここ（青森県立保健大学）に来て新しい生活の中で自然とそう思えるようになってきました。家族への思い、感謝をかみしめながら私はここにいます。

「この人のこういう考え方素敵だな、斬新だな」ほぉーっと感心するのと同時に、ふっ、と肩の荷が下りたようにたくさんのことを感じます。だからどんな辛い時も素直に「自分は幸せだ」と思えます。実はここ数年の一番大きな変化は、常に強硬姿勢でいた私が素直に弟を可愛いがれるようになったことです。ずいぶん年下ですが、私にたくさんの学びをくれます。

素直に感じることは意外と難しいのかもしれません。それでもやはり新しい発見、考え、動きができるものです。だから私はこれからもそうやって過ごすつもりです。

もちろん、素直に感じられるこころをもって。

新入生を迎えて

理学療法学科２年
藤田　聡香

新入生を迎え、去年の今頃は私も地元を離れて一人暮らしを始め、高校時代とは違った専門的な分野の授業に少々戸惑いつつも、新しい友人との出会いがあったり、サークル活動をしたりと忙しく過ごしていたことを思い出します。

２年生になり、学習の面で１年生の頃を振り返って思うことは、やはり１年生のうちにしっかりと学習の基礎を固める必要があるということです。２年生では実習や演習の授業が多くなります。また、講義でも専門的な用語を使うことが多くなります。今、これらの授業を受けて思うのは、１年生のうちに学ぶ基礎知識がなければスムーズには行えないということです。さらに３、４年生になると病院実習があり、十分な知識だけではなく、同時に技術も求められてきます。上の学年で高いレベルでの学習をするためには、１年生のうちからしっかりと授業を受け、知識を獲得することが大切だと思います。１年生のころ、特に前期の授業では出てくる用語が初めて見聞きするものが多く、戸惑うこともあると思いますが、１年生のときに学習したことはしっかりと身につけてほしいと思います。そうすることで授業がさらに身近に感じられるし、授業が楽しくなってくるはずです。

入学してだんだんと新しい生活にも慣れてきたと思いますが、勉強はこれからさらに大変になってきます。大学生活を充実させるためにも頑張ってください。

新入生の皆さんへ

社会福祉学科２年
竹浪　莉絵

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。大学生活には慣れましたか？思っていたよりも講義や課題が大変で驚いている人もいると思います。今でさえ大変だと思いますがこれから先、実習や国試の勉強なども加わり、より忙しい日々を送ることになると思います。

そんな中で私が皆さんに伝えたいことは目標を持って学校生活を送ってほしいということです。目標を持つことで日々にはりが出てよりたくさんのことを吸収することができ、授業への取り組み意欲も変わってきます。だからどんなに小さなことでもいいので目標を持ってほしいです。

そして大学生の間にやりたいと思ったことには積極的に取り組んでください。大学生活では学業以外にも自分を成長させてくれるものがたくさんあります。サークルでもボランティアでも遊びでも思いっきり時間をかけてやることができるのは学生のうちだけです。だから悔いが残らないように今やりたいことは妥協せずに何でも挑戦してほしいです。

大学生活の中で自分のやりたいことがわからなくなったり、将来のことで思い悩んだりすることも多々あると思います。そんなときは友達や先輩、そして先生などいろいろな人の話を聞いてみてください。きっと自分にはない考えやいいアドバイスなどをもらえると思います。これからの４年間、皆さんが楽しく充実した大学生活を送ることを祈っています。

栄養学科２年
櫻庭　優

みなさんいかがお過ごしでしょうか。僕の体調は中の上です。みなさんの栄養学科に対するイメージはどのようなものでしょうか。栄養学科は、アジアンビューティーだとか、肌では感じ取れない何かを持っているだとか、やわらかい、バブル到来を予感させるなどいう印象を多くの方が持っていると思いますが、栄養学科について簡単に紹介します。

栄養学科の学生は、主に女性で構成されており、ダイナミックさを売りにしている。ごくわずかながら男性も存在し、田口君と僕の二人だ。田口君は戦慄の核弾頭、僕はプーチン室伏というなんとも可愛らしい愛称で呼ばれて

いる。ここで、すこし考えてみる。たった二人しか男性はいないが、いないのと同然だろうか。いや、そんなことはない。男性は、栄養学科のホメオスタシスを保つ働きがあると噂しているのを耳にする。さらに、学生同士は、非常に仲がよく愛し合っています。栄養学科のみんなが自分の夢に向かってがんばっている姿には頭が下がり、夢は叶えるものなんだなあと改めて考えさせられました。

栄養学科の先生方は、一見、ただならぬ小悪魔のようなオーラを放っていますが、真の姿はとてもフレンドリーで、ポテンシャルが高く、八重歯で、ガッツがあり、ギラギラしており、そして僕たちのことを真剣に考えてくれている。と僕は思います。時には、愛の爆弾を落としてくれます。本当に心優しい先生方です。

これからは、僕たち栄養学科１期生と、今年入学して初々しい２期生、そして栄養学科の最終兵器でとても頼りになる先生方とともに夢を実現させるためにがんばって行きたいと思います。

新入生の皆さんへ

編入学生：
看護学科４年
三浦　千鶴

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活にはもう慣れましたか？新しい土地で新生活を満喫している人もいれば、家族と離れて寂しさを感じている人もいるのではないでしょうか。私も去年の今頃、家族と離れた寂しさから、毎日のように両親へ電話をしていました。

大学に編入してから１年以上が経ちましたが、今、私が強く感じることは、大学生は専門学校生に比べ、求められるレベルが高いということです。そのため、与えられた課題をこなすだけでなく、自分から学ぼうとする積極性が大切だと思います。大学には著名な先生方がたくさんいらっしゃいます。また、図書館には多くの文献が所蔵されています。是非、多くの知識や技術を習得して、有意義な学生生活を送っていただきたいと思います。

大学では、サークル活動やボランティア活動も盛んに行っています。私も去年の夏にじょっぱり隊というケア付きねぶたのボランティアに参加しました。県外出身のため、ねぶたを見るのも参加するのも初めてでしたが、障がい者の方の車椅子を押したり、跳ねたりとねぶたを満喫することができました。サークル活動やボランティア活動は自分自身の価値観を育てるよい機会だと思います。是非、学生生活では様々な経験をして、自分自身に磨きをかけていってください。

あっという間の２年間

大学院生：
博士前期課程２年
藤田　静子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。去年、同じように先輩の皆さんに迎えていただいてから、早くも１年が過ぎました。大学院における自ら学びたいという意志を持っての授業・研究は、〇年前の大学時代とは比べものにならないくらいに、魅力的でかつ充実したものです。修士論文を仕上げるという目標に向かって、２年間突き進むわけですが、先生の厳しくも暖かいご指導や、１年の時に授業を通して知り合った年代や分野を超えた方達との交流は、とても楽しいものです。いろんなことをディスカッションしたり、協力しあったりすることで、自分自身の視野が大いに広がったように思います。昼に、夜に、そして夜中に・・・と、どうぞいろんな方と交流してみてください。先生方からは、専門のことはもちろんいろいろな雑学を、同じような境遇の方からは、仕事と学業を両立する上でのヒントをもらったり勇気づけられたり、また、若い世代からはパワフルなエネルギーを吸収することが出来ます。

２年間は、あっという間に過ぎていきます。「学生」であることを理解し応援してくれる周りの人たちに感謝しつつ、この大学院生という立場をいろんな面で大いに利用して、少しでも多くのことを吸収し、有意義な２年間にすべく、一緒に学んで行きましょう。

社会人学生の立場から

大学院生：
博士後期課程２年
西嶋　智彦

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

私は、現在民間企業の研究所に在籍しており、東京での勤務を続けながら学生と社会人の二足のわらじ生活を送っています。なかなか大学へ行く時間がなく、ほとんどの時間は学生でなく、企業の研究員として過ごしています。従いまして、純粋な学生や仕事を離れて大学にこられている皆さんとは少し状況が異なっていると思います。

こんな立場の私が実感するのは、純粋にやりたい研究ができるのは学生であるときだけだということです。研究職だったら好きなだけ研究が出来るじゃないかと思われるかもしれませんが、実際にそのような環境にいる研究者は本当に稀だと思います。研究に打ち込める学生の期間は、研究者として成長できる最も貴重な時間です。ぜひ新入生の皆さんには、この貴重な学生生活を有効に使って、研究者・技術者として自分を磨いて行ってほしいと思います。また保健大には様々な立場で学んでいる学生や様々な分野で経験をお持ちの教官がいます。自らの研究に没頭しながらも、他の分野の人とも積極的にコミュニケーションをとり、研究者・技術者として成長されることを期待しています。　お互いに頑張りましょう。

充実した大学生活を送るために

新入生研修実行委員会委員長
看護学科
藤田　あけみ

本学では、青森県立保健大学の学生としてスタートするにあたり、教育全般について理解を深め、同級生・上級生・教職員と交流することで、新しい学生生活を円滑に過ごすために、開学時から合宿研修（平成１９年より研修）を行っております。この合宿研修は以下の３つの目標を掲げ実施しています。

1. 新入生が本学の教育全般について理解を深めることができる。
2. 新入生が同級生・上級生・教職員と交流を図ることで互いの信頼関係を深めることができる。
3. 新入生が学生自治会活動を知ることによって、学生相互の積極的な交流や活動を図ることができる。

平成２１年度の新入生研修は、４月１０日（金）に開催されました。午前中に学科別オリエンテーションと上級生との交流会を行い、昼食後に、全学科合同オリエンテーション、各サークル紹介、講堂での全体交流（レクリエーション）を行いました。午前中の各学科ごとの交流では、学科ごとに上級生の学生実行委員が工夫をこらし、楽しく交流が深められていました。全体交流（レクリエーション）では、ゲームを通して、新入生同士、新入生と上級生が体を動かしながら楽しんでいました。各サークルの紹介では、サークルごとに資料を作成し、それぞれのサークルをアピールしていました。サークル紹介は新入生の関心も高く、拍手や笑いが絶えませんでした。この研修により、新入生が大学生活に早くとけ込み、充実した大学生活を送ることを願っています。

最後になりましたが、新入生研修にご協力いただきました教職員の皆様、そして、研修の運営に中心となって関わって頂きました学生実行委員の皆様に感謝申し上げます。

新入生研修会を終えて

新入生研修会実行委員長
看護学科３年
檜田　智恵子

今年度は、４月１１日(金）に新入生２２２名（看護学科１１０名，理学療法学科３０名，社会福祉学科５１名，栄養学科３１名）の新しい仲間を迎え、昨年度と同様に本学で新入生研修会を開催いたしました。

開催するにあたっては、各教職員や学生と幾度もの試行錯誤を重ね、新入生及び学生全員にとって、新年度の新生活を迎えるに有意義な研修会となるよう、企画し運営しました。その結果、新入生や教職員または参加学生の各方面より、「参加を通して学年学科問わず、あらゆる学生と交流を深めることができた」、「新学年に進級し、学生生活を再スタートする上での友人とのよい交流会となり、楽しい時間を過ごすことができた」との意見が多く聞かれました。よって、新入生の相互交流、上級生・教職員との交流という、研修会の目的を達成できたと共にみなさんにとっても有意義な研修会となったことを嬉しく思います。

プログラムについての変更点は特になく、昨年とほぼ変わらずに行いましたが、今年度は各プログラムの時間配分を工夫し、新入生が研修会終了後に、新生活・授業に備えての準備や友人との交流、学校付近の散策などできるよう、従来の1時間程早く終えるように企画しました。
したがって、新入生からも「研修会終了後に学校・自宅周辺を散策したり、各学科各サークルとの交流会に参加したりと自分なりに充実した時間を過ごすことができた」との意見も聞かれ、それぞれ新生活を迎える上での希望や不安を抱えながらも、友人と共に新生活へのスタート準備ができたことと思います。

また、各プログラムの中でも新入生が一番楽しみとしており、キャンパスライフの目玉ともいえる、各サークルのサークル紹介や学年学科合同でのレクリエーション（体育館でのドッジボール）が好評でした。

サークル紹介では、前年度より新入生・学生からの要望にあった、全サークルの紹介を行うことを試みました。本学には、３０組（体育系１６組、文化系１５組;平成２１年４月）ものサークルが活動しており、各サークル3分ずつの持ち時間のもと、１時間半という少々長いプログラムとなりましたが、サークルのみなさんの工夫もあり個性あふれた紹介が数多くありました。そのおかげで、会場内の歓声や笑いが絶えずとても温かい雰囲気の中で、過ごすことができたのもとても印象に残っています。

レクリエーションについては、本部会役員の２年生２名が中心となって、学生全員が参加でき、学年を問わず交流を持つことができるよう配慮して運営してくれました。ゲームはトーナメント方式になっており、グループの先輩・後輩と新入生と作戦を立てながらゲームに臨んでいたところも見られ、どのチームにおいても学生同士の笑い声や応援の声で体育館はいっぱいになり、みなさんにとっても充実した楽しい時間を過ごすことができたのではないでしょうか。

新入生研修会は授業の一貫として毎年行われていますが、今年も学生や教員、教務学生課の方々や業者の方々その他たくさんの人々の協力により、運営されました。研修会の運営に携わったみなさん一人一人が、新入生の入学を祝い新しい仲間として迎い入れようと、積極的に企画し行動して頂いた甲斐もあり、今年度の研修会は企画から運営終了まで大きなハプニングや事故もなく、無事終えることができました。しかし、一部運営にあたり無理難題をお願いしたところもありましたが、各プログラム担当において、快く受けて下さり円滑に進行を進めることができたことを、心より感謝しこの場をかりてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

そして、新入生のみなさん。私たちもみなさんの入学を楽しみに待ち、胸をわくわくドキドキさせながらここまで進めてきました。楽しめて頂けましたでしょうか。研修会を通して、本学の校風や上級生・教職員のやさしさや温かさに触れ、入学するまでの不安や戸惑いも消失することができたことと思います。各学科の授業もはじまり、早2ヶ月を立とうとしていますが、みなさんがこの研修会を通して、得た友情や交流をもとに、これからの４年間が楽しく充実し、何事にも変えられないよき思い出を過ごしていけるよう心から願っております。

海外授業（イギリス）について
～ Happy British Life ～

栄養学科２年　高見　文月

イギリスの食べ物はまずい、とよく言われますが私はそんなことはないと思います。ホストファミリーの作ってくれた夕食は毎日おいしかったし、かわいいお菓子やサンドイッチのお店にもたくさん行きました。いろいろなものを食べてみたら、良くも悪くも（コンビニのあんかけ丼？や１£ショップのキャンディなど）数々の見た目に反した味との出会いがありました。

ホームステイ先では、シャワーの時間は１０分くらいと言われて毎日必死で、洗濯は週１回だったのですぐに服を買い足しました。この２つと日本への電話を夜中に、隣の部屋で寝ているホストファミリーを気にしながらしなければならないことが、一番苦労したことです。英会話にも苦労はしましたが、もう２０年もホストファミリーをしているというママ，パパたちは発音の悪い私の英語を理解しようとして聴いてくれたし、わからないことは説明してくれたので出発前の英語への不安はいつのまにか無くなっていました。

放課後や週末にはロンドンで買い物をしたり、パリを観光してきました。パリでは本物のモナ・リザとノートルダム寺院を見たこと、そしてお昼に食べたパスタの驚きの量と、フリーハグが印象的でした。

学校ではさまざまな国、年代の友達ができました。この人たちとの出会いが、私にとって一番嬉しかったことです。学校の友達とは一緒に lunch や買い物をしたり、夜にはパブやクラブに行っていろんな話をして、様々な言語で「I love you」を教わったのが面白かったです。コロンビア、スイス、トルコ、UAE、サウジアラビアなど日本にいるとあまり意識をしたことのなかった国の人との出会いは貴重な体験でした。最後の日、特にクラスの友達、担任の先生との別れは名残惜しかったです。

イギリスで過ごした日々はものすごく濃くて充実しすぎて、ここで伝えられるのはほんの一部です。日本と違うイギリスのよさ、また日本のよさを発見できて、視野も広がりました。いろんな経験をしたい人はぜひ行ってみてください。絶対に楽しい日々が待っています !!

日本で見えなかったこと
（海外授業　オーストラリア）

社会福祉学科４年　直井　智子

オーストラリアでの３週間は本当にあっという間でした。正直、私は英会話に全く自信がありませんでした。本学での英語の授業でも積極的に話すことが出来ず、下を向いてばかりいました。時には、誰かに代弁してもらいその場をやり過ごすこともありました。外国ではもちろんそれは通用しないので、出発前は不安ばかりでした。

しかし、現地で自分の話す片言英語が相手に何とか通じるという体験を重ねる内にこの不安がなくなりました。素敵なホストマザーとの出会いを始め、３週間通った ACL という語学学校の仲間など、「この人と話してみたい」と思える人達に出会うことが出来ました。ホストマザーはいつも優しく、私が３週間を充実して過ごすことが出来るように支えてくださいました。「このチャンスを逃したら、もう次は来ないのよ」それが彼女の口癖でした。英会話は全く苦手でしたが、沢山の人に助けられながら充実した生活を送ることが出来ました。

人との交流だけではなく、私は観光も大好きでした。シドニーの街並みはとても綺麗で、見ていて飽きない程でした。ホストマザーの後押しのおかげで、私は一人で自分の行きたい所へ行く体験をすることが出来ました。与えられた地図を見ながら、電車を乗りこなし、好奇心に任せて自分の足で観光するのは大変よい経験になりました。そこで自信や達成感を得ることが出来ました。水族館や博物館、美術館、植物園等、沢山の場所を巡ることが出来ました。中でも一番の思い出は、オペラハウスでオペラを鑑賞したことです。空間がかもし出す荘厳な空気の中に、音楽を始めとした芸術が響き渡り、その素晴らしさは涙が出るほどでした。

まだまだ、書ききれないことが多いのですが、興味のある方にはおススメです。ここでは、学ぶことが沢山あります。自分の感性を高め、多様な価値観に触れるチャンスではないでしょうか。

Villanova 大学、仁済大学との交流

国際科長　深谷　智恵子

今年も、北米ペンシルバニア州の Villanova 大学から７名の看護学生と２名の教授が来訪されました。５月連休明けで、丁度、新型インフルエンザ流行の真っ只中でしたが、一行は、米国を出国する前から医療の専門家として自ら厳しい健康管理をしての来青であったと聞きました。

5月10日（日）～15日（金）までの約一週間の滞在の中で、知事表敬訪問をはじめとし、浅虫におけるヘルスプロモーション活動、精神障害者作業所 SAN-net 青森、福祉プラザ、十和田中央病院などを訪問、大学外でも多くの学びを得ていたようです。学内においては、日本のヘルスケアシステム、日本のことば・文化、日本人の生活習慣などの特別講義、さらに、本学の学生の授業にも参加していました。学生同士の交流では、お互いの国の授業や学生生活について紹介仕合っていました。Villanova 大学の２名の教授からは、「救急看護ＮＰ（ナース・プラクティショナー）の活動の実際」、「修士論文と博士論文のクライテリアの違いについて」の講演があり、院生、学部生、本学教員、さらには近隣病院の看護師の方々の参加も多数ありました。

また、本年３月には、大学院健康科学研究科看護学分野の院生３名が Villanova 大学を訪問し、米国の専門看護師、ＮＰの活動の実際について研修を行いました。

7月10日（金）～8月7日（金）まで、韓国釜山にあるインジェ（仁済）大学から理学療法学科に４名の短期留学生が来訪し、学内および近隣病院で研修する予定です。また、8月21日（金）～9月4日（金）までは本学の理学療法学科生４名がインジェ大学で研修する予定になっています。この交流も回を重ねるごとに充実してきています。

それぞれの国の制度や政策の違いにより、同じ職業であっても役割や責任範囲に違いがあることもありますが、お互いよいところを学びあって、人々の健康づくりに貢献できる学生が育っていくことを願っています。

青森県知事表敬訪問：Villanova University のTシャツを着た三村知事

学長表敬訪問：Villanova University からの記念品を囲んで

ねぶたの衣装で楽しげな留学生たち

看護学科３年生と一緒の授業風景

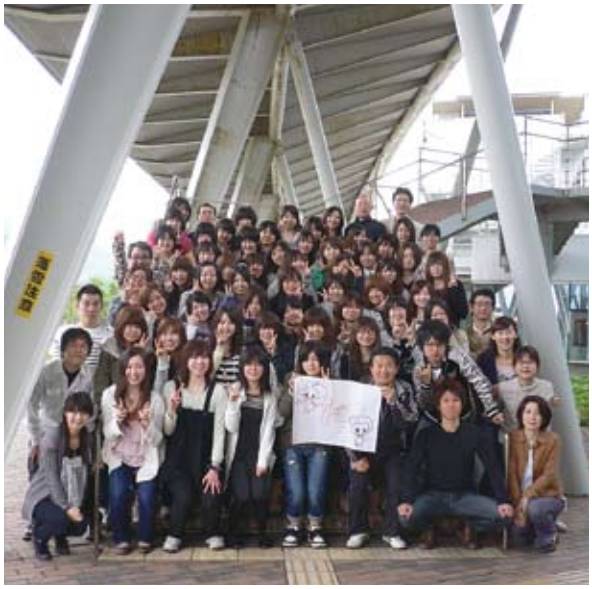
日本のお寿司は、おいしいと満面の笑み

見学研修：施設訪問

「食」を通して健康をまもる専門家 ～栄養学科が２年目を迎えました！

「栄養」という言葉に対して、皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか？　栄養学科を志望する受験生の皆さんの話を聞いていると、最初は漠然と「食べものに興味があるから」「お料理が好きだから」あるいは「将来資格が取れるから」という気持ちで、進路を考える人が少なくないようです。「栄養」（英語でいうと Nutrition）は、食べものに含まれる成分（「栄養素」Nutrient）を直接示す言葉ではなく、生命を維持し、養うために営まれる、食べものを口に入れた後に起こる身体の中の一連の変化を意味するものです。人々が生まれ、育ち、そして健康に毎日を過ごすための根源となる「食」をさまざまな角度から追求することが栄養学の役割であり、「健康」と「食べもの」との関わりを理解し、深く考えることが、栄養学科での学びの中心となります。

昨年４月に入学した第一期生の３１名。人体のこと、健康や病気のこと、食べもののこと、そして社会や環境のことなどを、講義や実験・実習で主体的に学びはじめ、「食」を通して健康をまもる専門家、すなわち管理栄養士を目指して奮闘中です。そして、この４月には２年次編入生３名、第二期生の３１名を迎え、栄養学科として総勢６５名となりました。５月の週末、新入生と２年生が集い、栄養学科の教員と共に、大学生活のこと、栄養学のこと、将来のことなどを、ゆっくり、しっかり考え交流・親睦を深めようと、学外宿泊研修会を行いました。テニスやペタンク、知的戦略ゲーム、グループワークと発表、そしてもちろん夜遅くまでの対話など、たいへん充実した２日間でした。学生も教員も一緒に「なんて素敵なチーム」なんだろうと感じるひとときでした。歴史や伝統といったこととはまったく無縁な栄養学科ですが、このようなチームに加わり一緒に学びたい、あるいは共同で研究したいと、興味をもたれましたら、是非とも栄養学科オリジナルホームページ（http://www.auhw.ac.jp/nutrition/www/index.html）にお立ち寄り下さい。奥深く、楽しい「栄養ワールド」がそこにあります。



みんなではいチーズ　（青い森アリーナにて）

美味しいごはんでみんな幸せ

学生自治会紹介

自治会長　看護学科３年　檜田　智恵子

平成２０年度１０月に学生自治会選挙の選出により、１１月付けで役員となった自治会役員９名及び平成２１年４月に選出された各種委員長３名により本部会を運営していきます。以下が今年度の自治会役員・各種委員長となりましたので、よろしくお願いいたします。

自治会長；檜田智恵子（看護学科３年）、副会長；熊澤芽葉枝（看護学科３年）、斎藤勇樹（理学療法学科２年）書記;前田和平（理学療法学科２年）、濱谷舞（栄養学科２年）会計；小山内直子（看護学科３年）、源田利奈（看護学科２年）庶務；竹内かおり（看護学科３年）、菊池翔子（看護学科２年）選挙管理委員長；安達慎也（理学療法学科２年）サークル代表委員長；坂岡美菜美（看護学科２年）大学祭実行委員長；檜田智恵子（看護学科３年）以上１１名と学生部長の藤井博英教授（看護学科）で自治会活動を進めていきます。

今年は、開学１０周年ということもあり学生自治会では、大学コンソーシアムに先駆けて他大学との交流を行ったり、大学祭や各種イベントを企画したりと色々な活動を考えております。また、大学祭に関しては、学長先生はじめたくさんの教職員と協力し合い、いつも本学を優しく見守り協力してくださる各種関係者のみなさんや地域のみなさんへの恩返しの意味も込め、精いっぱい企画し楽しんでもらえるよう、開催しようと思っております。

そして、学生だからできること、本学学生だからできることを本学学生自ら見つけ、それぞれの学生生活を存分に充実させると共に、積極的に地域にも関わり地域活性に寄与していけるよう、学生自治会が中心となり学生や地域のみなさんに関わっていきたいと考えています。

「津軽三味線」サークルです !!

副サークル長　看護学科２年　古谷　享子

みなさん、こんにちは！私たち「津軽三味線」サークルは、現在約２５名で活動しています。活動内容は、青森県の伝統文化である津軽三味線を弾き、三味線合奏や民謡の伴奏をし、県内の福祉施設への慰問やボランティア活動、大学祭での演奏会などを通し、地域の方々との交流を深めています。「津軽三味線」と聴くと、なんとなく“親しみにくい“などの印象を持つ方もいるかもしれませんが、ここ青森県には数多くのプロの津軽三味線奏者がおり、「吉田兄弟」さんなど、芸能界で活躍している方もいらっしゃいます。私たちのメンバーのほとんどは、保健大学に入ってから津軽三味線を始めているので、最初は誰もが初心者ですが、初めての方でも気軽に津軽三味線に触れることができます。また、先輩・後輩の仲がよくメンバー全員で楽しく三味線を弾き日々活動しています。

私たちは、津軽三味線のプロの先生から演奏する曲を直接教えていただき、その曲は先輩から後輩へと、毎年受け継がれていきます。その中で、“津軽三味線を弾く”ということを通して、県内出身者はもちろん、県外出身者のメンバーも含め、青森県の伝統文化である津軽三味線に触れることは私たちにとって、とても新鮮なことであり、また古くから受け継がれてきた文化を自分たちの肌で感じることのできる、とても貴重な体験・経験であることを学びました。また、演奏する曲の中には、その曲が作られた当時の人々の生活状況や気持ち、作曲した人の思いがつまっています。それをうまく表現することは難しいですが、少しでもその思いが表現できたらいいなぁと思い、練習しています。また、多くの方に津軽三味線の演奏を聞いていただくことで、津軽三味線のすばらしさや、奥深さを感じていただけたら嬉しいです。今後は、日々の練習を重ね、演奏の場を広げ、より多くの方と交流できるように精進していきたいと考えています。

第７期生の就職・進学活動を振り返って

就職対策委員会

本学第７期生の就職状況はこれまでと同様に高い内定・就職率を達成・維持することができました。

学生への就職活動サポートは本委員会を中心に全学体制で取り組み、主に次のような支援事業を行いました。

1　県内外の病院・社会福祉施設等に対する就職用パンフレットの配布及び求人票の提出依頼
2　学生と事業所人事担当者との直接面談による就職合同説明会の開催
3　学内公務員試験対策講座の開設
4　就職支援研修会の実施

大学としては本委員会を中心に、３学科と密に連携を執りながら各学科の特性に配慮したより実効性のある就職対策を打ち出し、今後とも第８期生への就職支援を進めていきます。

〔第７期生の進路状況　単位：人、％〕

（　）内は、前年実績

学　　科	卒業者数	進学者等数	就職希望者	就職者［うち、県内就職者］	就職率
看護学科	115	3	112	110　［54］	98.2（100.0）
理学療法学科	18	3	15	15　［5］	100.0　（84.2）
社会福祉学科	43	1	42	41　［28］	97.6　（94.9）
合　　計	176	7	169	166　［87］	98.2　（96.9）

看護学科における就職支援

看護学科准教授　藤本　真記子

１．７期生の状況

看護学科卒業生の就職率は、毎年ほぼ１００％です。これまでは、４年次後期に卒業研究論文の作成や国家試験が控えているためか、就職だけでも早く決めたいという思いが強くなるようで、採用試験時期が早く、選択肢の多い首都圏の病院への就職が多くなっていました。しかし昨年度は「本県の保健医療福祉の進展に貢献できる人材の育成」という本学の教育理念どおり、県内就職者が増え、同じ県内で働くものとして大変うれしく、心強く感じています。

２．学生への支援体制

看護学科では、４年生にとってもっとも身近な関わりを持つ卒業研究担当教員が、個別に助言･指導をしています。また、就職対策支援チーム（学部就職対策委員１名と学科の教員４名で編成）では、卒業研究担当教員と連携をとりながら、情報提供やガイダンスの開催などを通して全体的に関わっています。たとえば進路希望調査実施により、学生の希望する就職先や進学先を、それぞれの担当教員に伝えるのはもちろんのこと、県内定着への意識を高める関わりをしていただけるようお願いしています。今年度からは、全学部的な取り組みとして、就職活動セミナーが頻回に開催されるようになりましたが、看護学科でも独自の就職活動ガイダンスなどの支援を充実させていく予定です。

３．学生の皆様へ

看護職に限ったことではありませんが、就職後まもなく離職してしまう人が増えているようです。それは仕事ができる･できないではなく、自ら問題に向き合い、解決していく精神力のようなものが弱いのではないかと感じています。どうぞ在学中の今から、私たちの支えを上手に活用し、たくましく羽ばたけるよう、力をつけていってください。

理学療法学科における就職支援

理学療法学科准教授　山下　弘二

理学療法学科では、平成２１年４月までに1～7期生の１４１名がすでに卒業し、それぞれが全国各地で理学療法士として就職しています。就職の必要最低条件として、理学療法士の国家資格取得がある。今年度は全員国家試験に合格し、就職や大学院へ進学しました。本格的就職活動は、総合臨床実習終了後の４年次7月以降に始めますが、特に公務員の場合は、ホームページ等で確認が必要であり早めの活動を勧めています。

就職活動手順として、まず、アポイントメント後、施設見学をしてから、多くの場合は理学療法に関する筆記試験と健康診断、面接試験を受けるという流れになっており、学科としては卒業研究指導教員が、１～２名の担当学生を個別に責任を持って指導に当たっています。その場合、就職活動経過については、学科の就職対策委員を窓口として、学科会議を通して情報交換をした上で、就職対策の方法を議論しています。また、本大学で行っている就職活動セミナー、および、理学療法学科で行っている就職活動ガイダンスで指導が受けられる体制を取っています。

面接対策および履歴書作成で重要なのは、①理学療法士に携わる者としての心構え、②患者満足度、③コミニュケーション、④理学療法士として働く意義、⑤ 理学療法士とキャリアプラン、⑥自分の魅力、⑦選んだ理由・使命感や信念、⑧好感の持てる応募書類、⑨面接を受ける心構え、⑩ビジネスマナー、⑪ストレスコントロールがある。これらは臨床実習でも身につけなければならないことであり、４年次だけでなく３年次にも就職活動セミナーに参加して指導が受けられる体制を取っている（右写真）。

今後、理学療法士の急激な増加に伴って、就職活動も厳しくなると予想されます。どの産業でもそうでしょうが、労働者の増加にともない需給関係が変化しつつあります。つまり、働きたくても働く場所がないということが現実に起こりうるということです。そこで、本学の特色である「地域特性に対応できる人材としての理学療法士」の県内外へのアピールや、既に活躍している卒業生の就職先にも採用して頂けるよう、臨床実習施設としての追加登録を推進しており、今後も学科全体で、就職支援を行っていく予定です。

社会福祉学科の就職支援－入学から卒業まで総合的な進路指導を目指して

社会福祉学科准教授　増山　道康

社会福祉学科7期生、平成２０年度卒業生は、就職希望者４１名の内、４０名が就職し、就職率は９７．６％で連続して前年を上回りました。しかし、県内就職率は昨年より減少しました。就職先は、社会福祉施設、病院が主ですが、公務員採用も過去3年間では最も多く3名が採用となりました。内1名は、関東の中核市に福祉専門職で採用されました。民間企業への就職希望者は毎年増加傾向にあり、今回も民間企業等へは7人が就職しました。現4年生は更に多くの学生が民間企業等への就職を希望し、既に内々定が出た学生もおります。

社会福祉施設や病院からの求人は昨年よりも増加していますが、病院ワーカーについては、昨年同様社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験合格が採用条件となっています。幸いに内定者で国家試験不合格者はおらず、全員が就職できました。介護報酬等の改訂に伴い、福祉施設でも国家資格取得を重視する方向となっています。

これまでも、学科教員全員で就職相談、指導にあたってきました。一昨年からは、取組みを強化し、ジョブカフェ青森との連携のもとに2年生から就職ガイダンスを行ってきました。昨年からは、１年生から就職ガイダンスを行い、全ての学年で進路指導に取組みました。今後は、入学時から卒業まで、きめ細かい進路指導態勢をとり、個々の学生の資質や希望に合わせた進路指導を行っていきます。進路希望がいわゆる福祉分野に留まらず多岐にわたってきていますが、反面、新たな福祉職への展望も開けてきました。独立行政法人や地方自治体の福祉専門職の枠が広がってきています。学生の希望を尊重しつつ高度の専門性を必要とする職種への挑戦を支援し、福祉公務員等への採用の増加を図りたいと思っています。

企業だけでなく、公務員等もエントリーシートが重視されてきています。管理能力、交渉能力があり、かつ高度の専門性を持つ人材を民間企業も行政も求めていますが、福祉分野でも同様の人材が求められています。前に述べましたように資格取得も重要視されていますが、来年の社会福祉士試験から科せられる試験科目も増加します。

こうした点をふまえ、入学時から卒業後の進路を見据えた学習に取り組み、将来設計ができるような個別の進路相談を充実させ、一人一人にあったきめ細かい支援を目指します。

第７期生卒業記念パーティーについて

卒業関連実行委員（社会福祉学科４年）福井　康乃

平成２１年３月１９日、青森国際ホテルにて、第７回卒業記念パーティーが開催されました。卒業生や先生方、関係者の方々を含め約２００名近くの方が、パーティーに参加されていました。午前中に行われた卒業証書学位記授与式での袴姿から、華やかなドレス姿に着替えられた卒業生の方々は、とても輝いていました。

卒業記念パーティーは、１８時から２０時まで開催されました。パーティーが始まる前から、ロビーで写真を撮ったり、談笑したりする先輩方も多く、４年間の締めくくりである卒業記念パーティーを楽しみにしている様子でした。パーティーは祝辞、花束贈呈、電報紹介、各学科紹介等、盛りだくさんの内容でした。各学科紹介では、持ち時間１０分で３学科それぞれ合唱を行っていました。合唱が終わると泣き出してしまった先輩方もいて、４年間の学生生活を思い出されているのだと思うとともに、４年間で培われてきた絆の強さと深さを感じました。

卒業記念パーティーは学生が主体となって企画・運営を行います。多くの卒業生は当日参加するだけですが、卒業関連実行委員長を務めていた社会福祉学科の森竹絢香さんをはじめ、卒業関連実行委員の先輩方は、卒業研究や就職活動、国家試験の勉強の合間を縫って、事前に準備をされていたようです。私たち在校生も、事前の打ち合わせに参加したり、卒業生へのメッセージを模造紙に張ったり、来賓の方へのパーティーの案内状の発送を手伝わせていただいたり、当日の会場準備やパーティーの司会や受付の手伝いをさせていただいたりしました。微力ながらも卒業記念パーティーのお手伝いができたこと、そして先輩方と共に卒業記念パーティーを成功させることができたことをとても嬉しく思います。

卒業記念パーティーは、卒業証書学位記授与式と並んで、大学生活４年間を締めくくる大切なイベントです。４年間の思い出を話したり、写真を撮って楽しんだりするだけのものではなく、４年間を過ごした大学を離れ、別々の場所で新たな生活をスタートさせるためのものとしても大切な存在なのだと感じました。

４年間を大切に

伝法谷　明子
看護学科H17年３月卒業

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。私は大学を卒業後、県内の病院に就職し、４月から本大学で勤務しています。

大学では、専門的な知識を習得するために、勉強しなければならないことがたくさんあります。レポートも多く、実習や卒業研究、国家試験など、卒業までにたくさんの課題があります。しかし私が臨床に出て感じたことは、例えば記録や、コミュニケーション、パソコン操作に至るまで、いろんなことが４年間を通して確実に身に着いているということです。もちろん入職当初は戸惑うこともたくさんあります。病院によって看護技術の方法が違ったり、臨床では一人の患者さんだけでなく、たくさんの患者さんと関わるため、実習とは異なり、うまく関われず悩んだこともありました。でも大学の４年間での学びは大きかったと思います。

皆さんには、４年間を大切に過ごしてほしいと思います。実習も大変だと思いますが、患者さんから学ぶこともたくさんあります。そして時にはゆっくり休み、友人との時間も大切にしてください。大学では仲間の存在がとても大きいと思います。また、皆さんの周りにはたくさんの先生方が居ます。何か困った時には、いつでも気軽に声をかけてください。

働くことと大学生活

下山　諭史
理学療法学科H21年３月卒業

職場で医療単位をとるようになり、わずかな喜びを感じるとともにそれ以上に強く責任を感じます。毎日「もっと勉強しなくては!」と痛切に感じます。先日職場の新職員研修でも市の理学療法士会でも聴いた言葉がありました。それは「何事も素直な人は伸びる」です。まずは「何事も受け止めてみる」ことが大事だということだと思います。今あることはすべて自分の成長のためにあると思いながら日々過ごし、現場の先輩スタッフからの指導で勉強させていただいています。

大学生活でもさまざまなことを経験し、悪戦苦闘することはあると思います。そのようなときはまず「何事も受け止めてみる」ことをまずはしてみてください。そして、目の前に起こっていることはすべて正しい。それでどのようにしていけばいいのかを考えましょう。

最後に大学生活は時間があることが特権だと思います。生かすも殺すも自分次第です。私は、「バイト→遊ぶ→寝る→バイト→授業で寝る→バイト・・・」みたいな生活をしていましたから私を知っている方々からは偉そうに!と言われそうですが自由に使える時間を有意義に過ごしてください。

私がいま感じること

川添　万菜
社会福祉学科H21年３月卒業

大学を卒業し、私は現在、十和田市内の病院で精神保健福祉士として勤務しています。社会人となり、はや3ヶ月が過ぎました。毎日が新しいことの連続で、不安とプレッシャーの中、日々の業務をこなしています。また、支援することの意味やその難しさも痛感しており、実習中に学んだことを今度は支援する立場として改めて考えさせられています。

今、この3ヶ月間を振り返ってみて思うことは、３ヶ月間何とか頑張ってこられたのは大学生活での学びが自分自身の糧となっているからだということです。それは、知識や技術といった学びはもちろんですが、４年間の学生生活の中で、自分の頭で考えることの大切さを知り、それを身に付けられたことが大きいです。業務を通して、患者様やその家族の想いやニーズは十人十色で、決まった形はないのだと今改めて感じています。そういった方たちへ関わっていくためにはやはり自分で考え、柔軟に動いていくことが大切だと実感しています。

また、大学の友達の存在も大きいと感じています。頻繁ではありませんが、友達とメールや電話のやり取りをしていると、自然と“私も頑張ろう!”という気持ちにさせてくれます。４年間、苦楽を共にしてきた仲間の存在は卒業してからも私を支えてくれています。

大学生活はあっという間に過ぎていきます。私から伝えられるメッセージとしては、「考えることを怠らないこと」「仲間との時間を大切にすること」です。大学生活も忙しいとは思いますが、グループワークや実習、レポート課題、卒業研究など考える機会は沢山あると思います。その時に自分はどう考えるかを大切にして欲しいと思います。自分の頭で考えるという行為が後々役に立ってくると思います。そして、限られた大学生活を仲間と思う存分楽しんでください。

本学教職課程の運営状況～栄養教諭の育成を目指して～

栄養学科准教授　浅田　豊

食生活の多様化が進む今日、子どもが将来にわたって健康に留意した生活が営めるよう、栄養や食事のとり方等について正しい知識に基づいて判断できる「食の自己管理能力」や「望ましい食習慣」を子どもたち自身がしっかりと身に付けていくことが不可欠となっています。このような社会的背景等に基づき、本学栄養学科では昨年度より、食に関する指導の推進に中核的な役割を担う「栄養教諭」（１種）免許状を取得するための教職課程を開講・運営しています。

カリキュラムは、教育の目的・原理や教育の内容・方法に関する科目等をはじめとし、児童生徒の成長・発達あるいは教育相談に関する科目など、教職に関する深い専門性を修得するための科目などから構成されています。また基礎基本に係る科目から、より実践的で栄養教育の実務的技能に係る科目並びに演習・実習科目へと進んでいけるように、段階的に配当しています。即ち、教職以外の管理栄養士養成のための基幹科目や専門支持科目等の習得に支障のないよう、各学年やセメスターのバランスも考慮し1年次後期から４年次前期に至る範囲内で、計１５科目２４単位分、配置しています。

これらの諸単位の積み重ねへの支援を通じて、主に①食育を通して子どもたちの生きる力の育成に貢献でき、②肥満、偏食、食物アレルギーなどの児童生徒に対する個別指導を効果的に実践でき、③学級活動、教科、学校行事等の時間に、学級担任等と連携して集団的な食に関する指導を円滑に実施でき、④他の教職員や家庭・地域と連携した食に関する指導を推進するための連絡・調整を主体的に行うことができ、⑤栄養管理や衛生管理、検食を含む学校給食全体の管理をしっかりと担うことのできる人材の育成を目指したいと考えます。同課程の受講者人数は編入生も含めて、現在２４名です。学習態度は皆熱心であり、大変意欲的に受講しています。

本県での２１年４月時点での栄養教諭としての採用は１８人（主に学校給食センターへ配置）とまだまだ少ない状況です。需要と供給のバランスの問題がありますから、他の教員採用試験と同じようにはいきませんが、今後も中長期的観点から、同課程受講中の学生一人ひとりの学習ニーズや将来目標に合った最善の指導・支援に従事したいと考えます。

大学院新入生ウェルカムパーティー開催

健康科学研究科　看護学分野　クリティカルケア看護学領域　博士前期課程２年　船木　淳

２００９年４月６日（月）、本学大学院に新入生２２名（博士前期課程１７名、博士後期課程５名）が入学し、翌日４月７日（火）には、新入生と在校生、教職員が参列した「大学院新入生ウェルカムパーティー」が開催されました。

ウェルカムパーティーを開催するにあたり、私自身、昨年とは異なり新入生を招待する立場に変わった事で、仕事と学生の両立という慌ただしいながらも、充実した1年間を振り返る良い機会となり、改めて時の経つ早さを実感する事ができました。

当日までの準備にあたっては、博士前期課程２年生の８名が、それぞれの得意分野・個性を生かし、招待状や出席名簿の作成、Ｃ棟１階コミュニティホールの飾り付けや、持ち帰りができるおやつの包装、当日も司会や受付業務などを分担しながら行いました。お互いが忙しいながらも時間を作り協力して準備ができた背景には、領域が異なっていても講義を通じて共に学び、共同研究室での研究着手に関する語りや、交流があったからこそだと感じる事ができました。

松江研究科長の挨拶では、教育、研究、専門職のプロになる事の期待、大学院の講義を通じて研究をまとめる為の知識とたくさんの人と知り合いになれる等、歓迎のお言葉を頂きました。新入生にとっては研究者としての心構えができたと共に、在校生においても今年度は修士･博士論文作成という大きな課題に取り組むための意気込みに繋がったと思います。

領域ごとに分かれたテーブルでは、飲食を交えながら、教員によるそれぞれの分野紹介、新入生の自己紹介が行われ、新入生と在校生、教員を交えた交流が行われました。大学院での学習や研究に関しては、教員や先輩、同僚の助言がとても重要となってきます。そのような事も踏まえて、ウェルカムパーティーを開催し、新入生と教員、在校生が交流できた事は、今後の大学院生活の弾みになったと思います。

また、ウェルカムパーティーを開催するにあたり、支援してくださった教職員の方々にも感謝いたします。

2008年度青森県保健医療福祉研究発表会について

研究推進・知的財産センター　藤田　修三

第6回青森県保健医療福祉研究発表会は、平成21年2月13日、本学A棟で開催されました。本研究発表会が、５年前の青森県立保健大学学術研究集会から発展・充実してまいりましたのは、ひとえに参加いただいた皆様方、また企画に携わった委員のご支援、ご協力の賜物かと感謝いたします。今回のメインテーマは、「青森から発信する保健・医療・福祉実践のためのエビデンス−エビデンスの構築に向けて−」とし、科学的な根拠から実践への橋渡しについて考えてみました。申し込み演題数は、口述発表、ポスター発表をあわせて43題と、昨年よりより12題多い申込みをいただき、参加者総数は189名と、これも昨年に比べて20名多く参加いただけました。

午前はメインテーマに基づくシンポジウムは以下の基調講演から始まりました（座長本学鈴木孝夫学部長）。

1）栄養実践、管理栄養士教育におけるエビデンスの構築～青森から何を発信することが出来るのか？～（本学栄養学科吉池信男教授）
2）エビデンスに基づく理学療法（ＥＢＰＴ））の概念と今後の課題（本学理学療法学科岩月宏泰教授）
3）家族看護の専門家介入による継続教育としての家族看護の取り組み（青森県立中央病院　三上紀子氏）
4）０８年度保健・医療・福祉の向上に関する実践研究（社会福祉法人生活･文化研究所　大西一男氏）

吉池氏は現実的な世界で、栄養・食生活といった領域に関わるエビデンスを蓄積し、それを実践の場に役立たせること、また「研究のための研究」ではなく，世の中の役に立つ研究の大切さを説きました。岩月氏は理学療法に資するエビデンスすなわち、ＥＢＰＴは

エビデンスを「つくる」のは臨床研究であり、それを「つたえる」のが臨床研究成果を収集解析し系統的要約を行うことであり、それを「つかう」のが現場の理学療法士であり、エビデンスが使える理学療法士の重要性を述べました。三上氏は病棟における家族看護教育の取り組みは、看護師が患者及び家族を看護の対象として認識することからはじまり、そこから家族へのケアの在り方を学ぶことが出来、家族看護実践能力を高めることに繋がることを説かれました。大西氏は退職した自らの生活体験を通して、実践を通した新しい暮らし方、働き方を創造する人生の大切さを述べました。いずれのシンポジストの発言からも、研究成果に基づいた実践の大切さがうかがえ、保健医療福祉に関わる大学の教育・研究の在り方を改めて考えさせられる内容でした。

午後からは一般発表者による口述発表21題と、ポスター発表23題が発表された。口述発表ではウィルス、病原微生物に関する情報解析など、タイムリーな発表、問題行動や被虐待児の社会的スキルなど支援に関する研究発表、食品汚染の問題など幅広い研究成果が発表されました。ポスター発表では、食酢に含まれる降圧成分、アピオス花の機能性成分探索などが掲示されました。栄養学科開設に関連するのか食生活関連の発表が昨年に比べて少しふえました。

参加いただいた方のアンケート調査では、集会そのものについては概ね好評でしたが、参加しない・発表しない理由として、開催時期が年度末の2月であるとする回答もあり、今後とも、より多くの研究者、教育者、実践者が集える集会となるよう努めてまいりたいと存じます。

進学相談会

学生募集対策委員会

例年行われている進学相談会は、本学教員から受験生に対して直接メッセージを伝えることができる貴重な機会です。

今年も八戸市（５／１３、６／１１）、盛岡市（５／１４）、仙台市（５／１８）、秋田市（５／２０）、山形市（５／２２）、函館市（６／９）、五所川原市（６／１０）、弘前市（６／１１）、青森市（６／１２）、郡山市（６／１５）と、県内外１０ヶ所で実施しました。

「受験科目はどうなっていますか？」
「一人暮らしになるのが不安です・・・」
「卒業後はどういったところに就職できますか？」ｅｔｃ．
相談はカリキュラムの内容や学校生活、卒業後の就職など多岐に渡ります。
各会場とも熱心な受験生が多く、相談に応じる教員も力がこもっていました。
また、各高校の先生方や保護者の方にも多数ご来場いただきました。

進学相談会に来られた受験生の皆さん、是非、青森県立保健大学を受験して下さい。そして、来年の春にキャンパスでお会いしましょう！

人事異動

＜新任・転入等＞

看護学科教授　織井　優貴子（オリイ　ユキコ）

東京の雑踏を離れ、豊かな緑と海を眺めながら、静かに「がん看護に関連した教育・研究に携わりたい」と考え、一大決心をして青森にまいりました。「とにかくやってみましょう！」という恩師の言葉が心の支えです。

栄養学科准教授　吉岡　美子（ヨシオカ　ヨシコ）

これまで岩手の短大で栄養士養成に携わっておりました。厳寒での暮らしには慣れていますが、４月末の積雪に驚きました。冬の雪に若干怯えながらも、意欲的な学生の皆さんと共に充実した毎日を過ごしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

社会福祉学科講師　西村　愛（ニシムラ　アイ）

大阪府出身です。専門は知的障害児者の地域生活の支援方法です。先生方や学生の皆さんと一緒に、地域住民に開かれた大学として様々な取り組みができたらいいなぁと思っています。どうぞよろしくお願いします。

栄養学科講師　齋藤　長徳（サイトウ　チョウトク）

３月まで、医療現場に居ました。大きく変化した管理栄養士業界の教育養成に携わることに、大きな使命感と不安を抱いています。本学から実践管理栄養士をより多く輩出したいです。宜しくお願い致します。

看護学科助手　小池　祥太郎（コイケ　ショウタロウ）

久しぶりに青森に帰ってきて感じたことは、「暮らしやすさ」でした。大自然が残りつつ、日常生活も不自由しません。このような環境で仕事が出来ることに大変感謝しています。よろしくお願いします。

看護学科助手　伝法谷　明子（デンポウヤ　アキコ）

本学の２期生として卒業し、県内の病院で勤務しておりました。教員として働くのは初めてで、まだまだ慣れない毎日ですが、少しずつ成長していけるよう頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

看護学科助手　船木　淳（フナキ　ジュン）

青森に住んで２年目です。臨床では急性期や救急看護の経験があります。「看護」について学びを深めつつ、今年こそは青森を満喫し、津軽弁をマスターしたいと考えておりますので宜しくお願いします。

看護学科助手　谷田部　仁子（ヤタベ　キミコ）

教職１年生です。栃木県出身で、静岡県浜松市から青森県に初めて来ました。学生と共に楽しく学び、自分自身も一緒に成長していけるよう頑張っていこうと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

理学療法学科助手　須郷　磨衣子（スゴウ　マイコ）

４期生として二度目の大学生活を始めたのが今から三年前。まさかまた、この門をくぐるとは夢にも思っていませんでした。これも何かのご縁と思い、臨床とはまた違った角度から理学療法を学び直したいと思っています。

教務学生課長　白戸　一郎（シラト　イチロウ）

９年ぶり２度目の勤務となりました。大学校舎が当時と遜色なくきれいに保たれていることについて、教職員や学生の大学への愛着を感じとることができました。業務をしっかりと遂行していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

経営企画室主査　鈴木　玲子（スズキ　レイコ）

庶務担当です。未だにどきどきしながら仕事をしています。たまに聞こえて来る学生の皆さんの笑い声に、元気をもらっています。会うときちんと挨拶をしてくれる学生さんが多く感心しています。どうぞよろしくお願いいたします。

経営企画室主査　大西　学（オオニシ　マナブ）

４月からプロパー職員として採用されたことに伴い、弘前から車で通勤しています。朝早い生活と新たな仕事にまだ慣れていませんが、少しでも大学運営に貢献したいと思います。どうぞよろしくお願いします。

教務学生課主査　松尾　洋子（マツオ　ヨウコ）

目の前の仕事を片付けているうちにもう３ヶ月が過ぎてしまいました。学生たちの若いエネルギーを分けてもらいながら、先生方や学生の皆さんが楽しく過せるように少しでもサポートできればいいなと思います。

教務学生課主査　岩渕　操（イワブチ　ミサオ）

学生募集や入試関係の仕事をさせていただくことになりました。たくさんの人が青森県立保健大学を志望してくれるようにがんばりたいと思います。よろしくお願いします。

経営企画室　花田　理江（ハナダ　リエ）

慣れるより前に、次から次へと仕事が増えていき、いつも周りの皆さんに助けられ感謝する毎日です。「若いうちの苦労は買ってでもしろ」と言いますが、若いつもりでがんばります。

経理課　山田　知子（ヤマダ　トモコ）

大学という未知の世界に戸惑う事ばかりですが、少しずつこの環境にも慣れてきました。これまでの仕事の経験を生かし、少しでも大学に貢献できるような職員を目指して頑張ります。よろしくお願いします。

経理課　小山内　和香子（オサナイ　ワカコ）

「大学内から溢れる若さとエネルギーを頂きながら、毎日楽しく勤務しております。学生の皆さんや教職員の方々が気持ち良く授業や研究に励めるよう、努めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。」

地域連携推進課　寺田　泰二（テラダ　タイジ）

日々失敗を繰り返しながらも、先生方、事務局の方々のご指導をいただき、充実した日々を送っております。業務に携わる方々との「繋がり」を大事にしながら、取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

教務学生課　佐藤　知恵子（サトウ　チエコ）

毎日がめまぐるしく過ぎていき、気がつけばもう三ヶ月が経っていました。至らないところが多々ありますが、一つずつクリアして頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

教務学生課　和島　茜（ワジマ　アカネ）

大学の事務局とはどんなことをするのだろう・・・全く想像もつきませんでした。やっと周りの雰囲気に慣れた頃には３ヶ月がたとうとしています。まだまだ未熟者ですが、皆さんのお力になれるようがんばります。

＜転出・退職等＞

（県に復帰）　前田　泰三（教務課長）
（　〃　）　井筒　智賢（学生課長）
（　〃　）　千田　昭裕（経営企画室主幹）
（　〃　）　成田　浩一（総務課主幹）
（　〃　）　石岡　俊一（学生課主幹）
（　〃　）　松木　心一（総務課主査）
（　〃　）　岡村　慶子（地域連携推進課主査）
（　〃　）　野呂　香織（総務課）
（　〃　）　蛯沢　幸子（教務課）

（退　職）　石鍋　圭子（看護学科教授）
（　〃　）　佐藤　秀紀（理学療法学科教授）
（　〃　）　安田　勉（社会福祉学科教授）
（　〃　）　山内　修（社会福祉学科准教授）
（　〃　）　平尾　明美（看護学科講師）
（　〃　）　ヴェスティ　スコット（栄養学科講師）
（　〃　）　大津　美香（看護学科助教）
（　〃　）　佐藤　真由美（看護学科助教）
（　〃　）　早川　ひと美（看護学科助教）
（　〃　）　川上　由紀子（学生課主査）

＜昇　任＞

助教から講師へ
看護学科
井澤美樹子

助手から助教へ
理学療法学科
長門　五城
理学療法学科
福島　真人

主査から主幹
古跡　健将
間山　秀幸
鹿内　亮一

編集後記

≪活彩！保健大学だより≫も、号を重ねて第２０号を発行することとなりました。原稿執筆にご協力くださった皆様、ありがとうございました。

新入学生も第１１期生となり、大学自体も新たな第一歩を踏み出したと言えるのではないかと思います。厳しい世界情勢の中、なかなか大望を持ちにくい時代ではありますが、学びの場である本学は、新しい知識や経験を積み重ねることができ、希望が膨らむ場所でありたいと思います。

以前、ある教育者が子育てに絡んだ講話の中で、「私が自分の子供に残せる財産は、直接的にも間接的にも、子供に身に付けさせた、生きるための知識しかない。」と語られました。おそらく、教育というものの重要性を語られたのでしょう。“生きる”という言葉の使われ方が何となく変化している昨今ではありますが、生きるために“学ぶこと”が必要なのは、今も昔も変わりません。また、“人が生きていくとは何か？”という問いに対して、“夢・目標を持って行動し、社会に貢献すること”という答を、最近よく耳にします。このふたつの話を合わせて格言めいた言葉にすると、『親が子供に残せる財産とは、“夢や希望を持って行動し、社会に貢献するための知識”である』ということになるでしょうか。

このように言葉にしてみると、“学び”には心が、愛情が伴わなければならないことがよくわかります。本学広報誌も学びの一部です。愛情が伝わる紙面を心掛けていきたいと思います。

（広報情報委員　長門五城）

公立大学法人
青森県立保健大学
〒030-8505 青森市浜館字間瀬58-1 TEL017-765-2000(代表)
編集・発行／青森県立保健大学広報情報委員会　大学ホームページ　http://www.auhw.ac.jp/
（バックナンバーもご覧になれます。）